

いずみニュースレター

令和6年5月発行 第28号

心あるとは・・・

社会福祉法人いずみ理事
武蔵村山市教育センター研修室長・教授
小野江 隆

増える無人化の功罪。餃子、食肉、野菜、ラーメンと 無人化販売ばやりである。今後、過疎地域においても、どこに設置しようかとさらに増える方向にあるという。コンビニでも無人化の方向にある。コロナ化で促進された感もある。しかし、どうだろう。目の不自由な方は、その無人化には対応できないから、結局、買うのをあきらめるか、常に「すみません」と店員を呼び出し、声をかけることになる。

便利になるということ、それは、健常者にとっては、働き方改革等含め、合理的なことかもしれないが、目の不自由な方々にとっては、「すみません」「すみません」と生きにくい環境になりつつあるのではないだろうか。無人化は、決して共通する「便利」ではすまされない。

以前高田馬場の駅前の学校に赴任していたことがある。そこで、総合的な学習の時間の中で、サウンドマップづくりをしたことがあった。音（サウンド）環境をヒントにしてその地域の住みやすい街づくりの実態を探ろうという内容である。フィールドワークをした彼らは、いくつかの現象から社会の矛盾に気付くことになる。

近くに点字図書館があるので、点字ブロックや、横断歩道の信号機もいち早く音響式信号機が導入され配備されていた。しかし、どうだろう、その音は、行き交う車の騒音だけならまだしも、大型娯楽施設の中でかかる音（騒音）にかき消されていく事実気付く。今は、そうした娯楽施設は二重の扉になったが、騒音に配慮された結果であろう。しかし、新たに店舗が入れ替わると、そうした配慮が踏襲・継続されているわけではない。

時に、点字ブロックは、放置自転車によってもさえぎられる。いつも犠牲になるのは、視覚障害者の方々である。一見、配慮ある社会の方向に進んでいるようではあるが、本末転倒と思わざるを得ない現実がある。SDGsが謳われる昨今、障害のある方々に優しい街づくりには、まだまだ程遠い。

フランスパリ郊外のショッピングセンターでは、車椅子専用のマークのある駐車場は、ショッピングセンターの入り口に最も近いところにある。道路上にある駐車スペースで、同じく車椅子専用マークのあるスペースにもし通常の車が止まっていると、だれかれとなく写メを取られ、通報される。するとものの数分でパトカーがやってくる。善意の配慮ではなく、当然の配慮、すべての市民としての権利であり、市民に共通する条件なのだ。

(→2 ページ目へ続きます)

「心ある・・・取組、施策」として常に吟味が必須である。そして、「心ある」とは、「しなやかさ」が必要なのだと思う。

令和5年3月にとりまとめられた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」において、「不登校特例校」の名称について、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の審査で、文部科学大臣によって「学びの多様化学校」と決定された。

不登校は、決して児童生徒の意志で不登校なのではない。多くの場合、意志に反する考えや行動である。行くことができない、通うことができない、学びの場に向かい合うことができない状態なのであって、それは、本来、そうした児童生徒に寄り添い、向き合った名称が必要で、配慮というより、姿勢そのものが必要だったように思う。ようやく見直された感がある。

こうした状態や実態把握からのみ付けられた名称はどこにでもある。不登校の原因となっている項目に「無気力」という文言があるが、現象だけを取りあげて、そもそも無気力になったのは何かを追求せずに、「無気力」にすべてを押し込めてしまう。本当は、無気力なのではなく、無気力・無関心にさせてしまった社会や環境、教育に課題がある。こうした「心ないひとくくりの言葉」が、共通言語となると、思考を停止させてしまい、思考する気力さえも失わせてしまう。

蝶の羽ばたきがハリケーンを引き起こすというエドワード・ローレンツのカオス理論に例えるなら、言葉が社会の国の解釈として、その国の民度や思考と結びつき、時にその言葉そのものが独り歩きをして、国の代名詞やメッセージのように受け止められかねないことを自覚すべきかと思う。

「おもてなし」「もったいない」などは、輸出された国の文化にも影響を与えた言葉である。幸いなことにフランス在住時代、フランスから見る日本の姿は、リスペクトされた文化であり、礼を尽くす、儀礼を重んじる、規律正しい国として、多くの人々に認識されていた。

心あるしなやかさは、言葉を通じて、国のイメージをも左右することを肝に銘じたい。心ある施策、心ある取組み、心ある理解、が必要で、人間の感覚に、心あるしなやかさを忘れたらそこには、弛緩された社会の営みしかない。

教育センター3階には、障害のある方が、サポートする人とともに通過する時間帯がある。声や音でわかるのだが、教育センター横をゆっくりと通り過ぎる。そんな時、「おはようございます」の声をかける。いつもではないが、目の奥で「きらっ」としたものを感じる瞬間がある。会話で繋がれないかもしれないが、あいさつでは、繋がれた瞬間がある。居心地のよい場所になってくれればと思う。

要介護高齢者や障害のある方々が住みやすい生活の実現に向けて、福祉サービス、住まい、医療、所得保障、地域交流、雇用・社会参加、教育、権利擁護、バリアフリー、防災など、生活全般についての支援施策が必要であるが、何よりも地域住民や家族の理解と支援が不可欠であり、そこに「心あるしなやかさ」を忘れてはならないと思う。



思い出ほわほわ ～おわかれの会でのメッセージから～

あゆみの家幼児部 管理者 田中 裕樹

早いもので、あゆみの家幼児部が閉園してから1ヶ月半が過ぎました。活動していたフロアは完全に片付いてはいませんが、つばさ職員さんの力を借りながらライフサポートつばさのリハ室に生まれ変わりつつあります。また、療育に使っていたものも、法人内他事業所に引き取っていただいています。個人的には、まだまだ仕事に余裕のある状況ではありませんが、少しだけ心にゆとりができてきましたので、お世話になった皆さまのことを思い、キーボードを叩いております。

令和5年度末の3月30日（土）に、あゆみの家幼児部の修了式とおわかれの会を行いました。修了式では、3月まで在籍の園児、ご家族といっしょに、この1年元気に通園できたことを喜び、修了のメダルやあゆみの会様よりいただいたプレゼントをお渡ししました。

おわかれの会では、10:45～14:00に、在園児、卒園児、保護者家族、元職員、現職員等、総勢92人が集まり、過去の写真のスライドショーを鑑賞したり、幼児部のお子さんたちが創作活動で作った桜の壁面の前で記念写真を撮ったり、それぞれの想いを付箋紙に書（描）き残してもらったり、そして何よりそれぞれ思い出を語り合ったりして、あゆみの家幼児部を偲びました。

おわかれ会には、様々な年代の方々が集まってくださいました。気分はあゆみの家幼児部同窓会！平成18年度卒園のみなさんとは、当時の朝の会を再現して大笑い。また、平成28年度のスुकスクグループのみなさんも勢ぞろいでした。それぞれに成長した姿だったり、よい意味で変わらない姿だったりを見せてくれました。お忙しい中を、本当にありがとうございました。

皆さんにお忙しい中集まっていたただけのことがありがたかったのですが、皆さんに書（描）いていただいた付箋紙のメッセージが、涙が出るほどにありがたかったので、一部をご紹介します。

○あゆみ ありがとう

- ・あゆみっ子として過ごした日々、忘れません
- ・たくさんの楽しい思い出をありがとうございました
- ・（通園したのは）短い期間でしたが、あゆみには母子ともに支えていただきました
- ・子どもにとって、とてもいい経験をさせてもらうことができて、感謝でいっぱいです

○あゆみたのしかったです ようじぶだいすき おもしろかったよ またあそぼうね

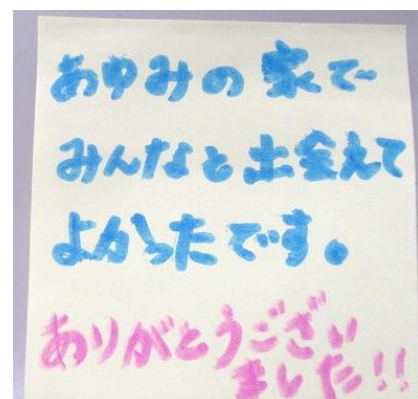
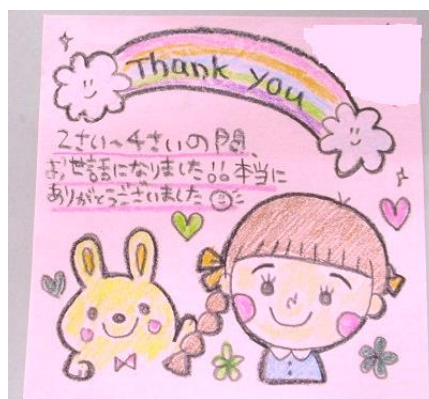
- ・たのしいあゆみの日々をありがとうございました
- ・あゆみの家幼児部にかかわったすべての人たちが幸福でありますように

○印は、卒園児さんが書いてくれたものです。小学校に入学して、成長した姿だけでなく、学んでいる成果もみせてくれました。しっかりとした字で書かれていること、そして、メッセージの内容に感動でした。日々の療育、保育の中で、大きなことから小さなことまで様々な成長を見届けてきましたが、卒園後の姿を拝見できたことに感謝です。

おわかれの会で皆さんから多くお話があったのが、「みんなと会えてよかった」「同窓会をしてほしい」という声でした。以前、令和4年度の卒園児、保護者さんからも「同窓会はしないのですか」という声もいただいていた。療育、保育をする場所としては無くなってしまいましたが、皆さんの心の中に

『あゆみの家幼児部』

の思い出がある限り、集まって思い出を語り合える機会があるといいなあと思います。いつとは確約はできないのですが、そのような機会があってもいいですね！？
ですので、さようならとは言いません。またみんなで会いましょう！



各事業所より

今回のテーマは、“連携によって実施できた支援のエピソード”です。連携とは、様々な人や機関と、目的や力を合わせて行う幅広い営みを指します。どの事業所もそれぞれの色を出しながら、共通して連携を大切に考え、心を砕いている様子が読み取って頂けると思います。



あゆみの家成人部の地域連携

(東村山生活実習所様との連携について)

あゆみの家成人部 増田 賢悟

あゆみの家成人部は（というよりかはあゆみの家拠点のお話ですが）、施設のすぐお隣が社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会の東村山生活実習所様です（以下実習所様）。実習所様は何十年もの間、良き隣人として、また福祉施設同士として協力してくださっています。あゆみの利用者さんはお散歩で実習所様のカフェに行くのが大好きです。実習所様からは時々、お昼にパンやお菓子の訪問販売が来て下さり、利用者さんはおやつとして持ち帰られたり、職員はお昼ご飯にさせていただいたり、良い関係が続いています。今年の6月にはコロナ以前まで続いていた合同でのお祭りも復活、開催を企画しています。

また、災害時応援協定を結ばせていただいております、2011年に東日本大震災が発生した際には、実習所様から職員さんが助けに駆けつけてくださり、停電でエレベーターが停止している中、2階にいた利用者さんの1階への避難を助けていただきました。実習所様とは、これからもお互いを助け合う素敵な関係を築いていきます。



他機関との連携

ひまわり（児童発達支援） 西島 悠子

本事業所には他事業所との並行通園や保育園利用をしているお子さんが複数います。療育時間だけでは把握できない事も多く、他事業所等での様子を知る事は療育の質を上げる上で大切であり欠かせません。

その為、関係者会議、電話、メールでの情報共有等をととても大切にしています。見学の依頼がある場合は、普段の様子を見ていただいております。また、他事業所に職員が行き、見学をさせていただく事もあります。

リハ機関でのお子さんの様子は保護者から情報を聞き、共有していますが、詳細や不明点等あれ

ば保護者の確認を取った上でリハ機関にも連絡をしています。

令和5年度は、お子さんが通っている保育園の先生が訪問されました。日々の療育を実際に見ていただき、児童発達支援事業所としての専門的立場から、保育園での過ごし方をアドバイスさせていただきました。多くの時間を過ごしている保育園での様子を知る事で、ひまわりでの療育向上にもつながりました。

子ども達は多くの機関を使い、多くの人に見守られながら成長しています。保護者の協力のもと、他機関と連携をしながら、日々お子さんを見守り、成長促進を促せる事業所でありたいと考えています。



保護者の協力があつての行事活動

ひまわり放課後等デイサービス 小山 大志

令和5年5月に新型コロナウイルスの5類移行が決定し遠足等の外出行事も再開したいと考えていた時期、保護者会で『以前外出したジブリ美術館が楽しかった。保護者付き添いでも良いのでまた行けたら良いな』と意見を頂く事がありました。その一言にも後押しされて企画を進め、11月にジブリ美術館親子遠足を実施する事ができました。その後もイルミネーション見学、イチゴ狩りなどの親子遠足を実施し、毎回多くのご家族に参加して頂き、好評を頂いています。遠足等の行事は介助人数が多く必要なため職員のみでは出来る事が限られてしまいます。保護者の協力があつての行事活動なので、利用者はもちろん、参加し協力して頂いている保護者の皆様も一緒に楽しめる企画をこれからもたくさん行いたいと考えています。



お掃除ボランティアさん受入れをして感じたこと

ファウンテン 梶沼 知徳

ファウンテンはグループホームです。グループホームとは「利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来る様に支援する事が事業の目的です」と示されています。

ファウンテンにおいても“地域”の言葉を意識した取り組みを行おうと考えています。昨年10月に新規開所して以降に取り組んだのが、何はともあれ新しくファウンテンができたことを知っていただく事が先決と思える事から始めました。

ファウンテンと東村山市ボランティアセンターは距離的にもとても近いこともありボランティアさん募集を申し込みました。お掃除を中心とした内容ですが早速数名の申込依頼があり、現在2名のボランティアさんが継続して来てくださっています。

地域との小さなつながりですが継続して行う事で将来につながるきっかけになる事を望んでいます。

今後は避難訓練の際に地域の消防団との連携や近隣の福祉施設間の交流も行うことを予定しています。地域のチカラのご協力を頂きながら、それと同時にファウンテンが地域に向けてお手伝いできることは何かも一緒に意識し、連携が一方通行にならない様にファウンテンも努力することが地域の中で事業運営していくという事かと考えています。



ボッチャ大会の思い出

ライフサポートつばさ 山下 毅

つばさの利用者さんたちが何人かで、東村山市の「市民ボッチャ大会」に出場したことがありました。コロナ前ですからもう数年前になるのですが、つばさらしさや、他機関との連携や、一般の方との交流など、いろんなことを含んでいて楽しかった支援の思い出です。始まりは、あるお一人の利用者さんが目にとめたポスターからでした。その後つばさの中で仲間にも声をかけ、申し込みや大会側との折衝をし、練習も重ね…。私たちつばさの職員もおおいに共感し、行動を共にしました。ところが大会は休日、場所はスポーツセンターとなると、つばさの支援としては守備範囲外です。当日の直接の支援はご家族様につなぎ、ヘルパー事業所さんにつなぎ、大会側のご配慮も頂きながら、私たちは休日の余暇として、観覧席からの声援に徹したのです。

言うまでもなくつばさもいずみも、東村山市をはじめとした関係機関との連携のもとに成り立っていますし、個々の利用者さんのケアにあたっては、もっと多様な機関と連携します。例えばケースワーカーさん、相談支援さん、医療機関さん、訓練機関さん、ヘルパーさん、移送サービスさん、車椅子や装具屋さんといった、多くの方と力を合わせて支援をします。私たちつばさの生活支援員は、日ごろから利用者さんにとって身近な存在であることを自負していますから、利用者さんの小さな願いにもまず最初に気づき、寄り添いたいと思います。つばさとしての支援力には限界があっても、適切な関係機関との連携を活用し、実現につなげ、共に喜び合える存在でありたいと思います。

他機関との連携

トビラ 村山 暁

相談支援事業所トビラでは、市障害支援課、児童相談所等の行政機関や基幹相談支援センター、他、近隣市含めた訪問看護事業所やヘルパー事業所等と日々連携しながら利用児者の支援を行っていますが、地域で豊かな生活を実現するためには各事業所との連携は欠かせません。当法人にも複数の事業所があり、各事業所とも連携しながら業務に当たっていますが、法人内の事業所との連携では、情報の共有や職員との相談がしやすく、密な連携により、問題解決に至るまでの時間が早いところにメリットがあると思います。今すぐに解決しなければいけない問題を解決するために事業所の職員と一緒にご利用者の自宅を訪問したことも何度もあります。今後も法人各事業所や役職員とも情報共有し、法人全体で課題解決のために取り組んでいきたいと思っています。



ホームヘルプひだまりの連携

ホームヘルプひだまり 会田 美信

ホームヘルプひだまりは在宅支援事業所として、家庭や通所施設だけではなく、複数の事業所を利用している利用者もいるため、他事業所など幅広く情報の共有、連携等を行っています。

それ以外に市内外近隣のヘルパー事業所からの代表が集まり、専門職として制度や支援技術の勉強会などを行っている、居宅事業所交流会への参加もしています。

居宅事業所交流会では介護の専門職として質の高いサービスの提供をし続けるために、自分たちができることを増やし、それをヘルパーに伝達し利用者サービスの向上をはかっています。また他事業所の職員と交流することにより、新たな気づきを得たりしています。

新年早々、能登半島で地震がありました。現地では未だいつも通りの支援が提供できていないと聞きます。前年度にはBCP（業務継続計画）の策定が義務付けられました。BCPとは災害時や、感染症が発生した場合でも安定的、継続的なサービスが提供が続けられるよう各事業所で作成しています。

BCPは作って終わりではなく、被災後の迅速な支援体制の確保や、復旧に伴い一日も早く日常の支援が送れるように計画の見直し、更新をホームヘルプひだまりだけではなく法人全体で行って行っていきたいと考えています。

ホームヘルプひだまりでは「在宅支援」＝「生活を支える支援」を行う為、またより良いサービスの提供を目指して幅広く、連携に努めています。



令和5年度 社会福祉法人いずみ 虐待防止研修会 講演会のご報告

◇日 時：令和6年2月4日（日） 14:00～16:30

◇場 所：東村山市市民センター 第1～3会議室

◇講 師：東村山市健康福祉部障害支援課長 加藤博紀氏

◇テーマ：「障害者虐待をなくすために」～未然に防ぎ、早期に発見する～

◇内 容：障害者虐待防止法や通報等基本の確認や、都内における障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の状況や事例等についてのお話から、障害者虐待を防止するための取り組みや例や、人権意識・知識や技術向上のための研修の重要性等、多岐にわたりご講演いただきました。その後、グループワークを行いましたので、その内容を中心にご報告致します。

◇グループワーク

テーマ：『座位保持装置などにおける「ベルトの装着」について考える』

趣 旨：身体拘束をするしないにかかわらず、支援会議で議論をし、その中で必要性を検討することが必要。ベルトについて、まずは利用者さんの安心安全を第一に考える中で何が必要かを意見交換し、確認しながら進めていくことが必要。

【グループワーク後の発表】

Aグループ：それぞれの利用者により、又、どこのベルトかで意味合いが違う。車椅子にベルトが付いていればするものだという認識があるのではとの話もでた。利用者にとって何が最善かを皆で考えていけるとよい。

Bグループ：ベルトが付いているというのは安全面からだと考えるが、なぜ付いているのかを知ることが大切ではないか。場面や状況により、ベルトの機能を使わなくてもいいところがあるのではないかとすることを共有して話していくことが大切。

Cグループ：安心安全だけでなく、側弯の防止のために車いすにベルトが付いている方もいる。車いすから降りることで姿勢が崩れてしまうケースもある。それぞれ必要性は違うが、定期的に聞き取り等を通して、ベルトは基本的に拘束にあたるという認識を持ちながら、安全面に考慮してベルトを使用していくことが大事。

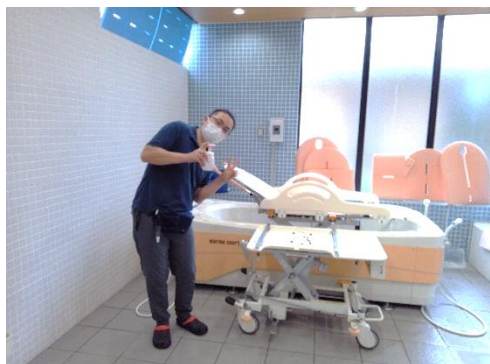
Dグループ：車いすでは姿勢保持、安全確保でベルトをつけている方が多い。ベルトを外す工夫が大事だと思うし、利用者自身が自由に動ける時間帯を作ることも大事だと思うが、安全確保できずに怪我をさせてしまうと本末転倒になってしまう。利用者が自由に動けるスペース、人員配置等の工夫を考えながら進めていきたい。

.....
☆法人いずみでは、1年に1回法人全体で虐待防止研修を行うと同時に、年間を通じて、虐待防止チェックリストの活用や、外部委員を含む懇談会等を定期的実施しています。これからも『虐待はしない・させない・許さない』風土を築いていきたいと思ひます。

（担当：松本恭子）

職員ひとことリレー

テーマは“利用者さんとの楽しかった思い出”です。



昨年度に成人部に異動になり、初めて入浴介助をお手伝いした時ですが、利用者さんが気持ち良さそうに入浴している顔を見て、心も体も癒す介助のやりがいを感じました。これからは利用者さんの心身を癒せる支援を目指していきます。

所属 あゆみの家成人部

名前 増田 賢悟 勤続年数 7年



安全運転と笑顔を届けて

ひまわりの送迎運転手をして7年になります。お預かりした園児を「ひまわり」と「親元」に無事送り届ける為に、運転に細心の注意を払う事、運転に集中する事を心がけています。

送迎の行き帰りで園児を車内にご案内する時、「〇〇ちゃん、おはよう。ひまわりに行くよ」「お家へ帰るよ」と声をかけると手足をばたつかせたり、笑顔を見せたり、目を合わせてくれたりと色々な表情で返事をしてくれます。そんな毎日の何気ないひと時が何とも言えません。

所属 ひまわり（児童発達支援）

名前 住吉 一夫 勤続年数 7年





所属 ひまわり (放課後等デイサービス)
名前 廣瀬 富 勤続年数 10年

社会福祉法人いずみに入職してあゆみの家成人部とひまわり放課後等デイサービスと合わせて10年になりました。

建物は一緒なので時折、成人部の方にも顔を出した時に利用者さんに呼んで頂いたり、コミュニケーションを取った際に笑顔を見せて頂き嬉しく思います。

ひまわりでは4年目になり年数を重ねる度に活動の中で、子ども達の成長を感じ驚く事ばかりです。お互いに慣れてきたこともあり笑顔もたくさん見せて頂き元気をもらっています。

年齢に関係なく笑顔の力はすごいなと感じています。お互いに笑顔で元気に過ごせるように、これからも頑張っていきたいと思います。



所属 ファウンテン
名前 丸山 雄大 勤続年数 1年

ファウンテンが10月に開所になり、もう半年になります。最初は利用者様が緊張されている様子が伺えましたがコミュニケーションをとっていくにつれて笑顔が日々増えていった事が印象に残っています。これからも笑顔が絶えない日々を送っていききたいです。



所属 ライフサポートつばさ
名前 笠井 みゆき (PT) 勤続年数 1年

つばさで働くようになって1年が過ぎました。みなさんと運動支援を一緒に楽しく行っています。ストレッチを受けるよりも、平行棒を使って立ち上がったり、寝返りや四つ這いで自分から動くことにアクティブに取り組んでいるとき、たくさんの笑顔を見せてくれます。その笑顔に、私もパワーをもらっています。

これからも、楽しく運動が出来るようにいろいろなプログラムを考えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。



所属 ひだまり
 名前 熱田 佳代 勤続年数 2年

”利用者さんとの楽しい思い出”それは外出支援の時間です。朝、お会いした時のワクワクした表情や何をしようか？と一緒に考え共感しながら過ごしたりする中、利用者さんの笑顔につられて嬉しい気持ちでいっぱいになります。そんな日々を大切に、これからも寄り添い、支援させていただきます。

勤続表彰

年度当初に当たり、法人いずみでの勤務の長い職員に表彰を行いました。いずれも、私たちの行う支援の“要”と言うべき存在です。



(1) 勤続 15年

江藤 明子	ひまわり (放課後等デイサービス)	児童指導員
宇田川 廣一	ライフサポートつばさ	運転手
森澤 節子	ホームヘルプひだまり	居宅支援員
竹内 友子	ホームヘルプひだまり	居宅支援員

(2) 勤続 10年

廣瀬 富	ひまわり (放課後等デイサービス)	児童発達支援管理責任者
下島 初子	ひまわり (放課後等デイサービス)	児童指導員
高野 加奈子	ライフサポートつばさ	生活支援員
亀井 雄一朗	ホームヘルプひだまり	管理者

編集後記

先日は中央公園『緑の祭典』で、あゆみの会の皆さんとささやかながらコラボできたので、大いに力を得ました。イベント再開の機運の中、原点から再スタートしていきます！

発行元 社会福祉法人いずみ
 東京都東村山市富士見町 3-3-4
 TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。